

第126回経営協議会議事録

日 時 令和3年12月13日(月) 15時～17時15分

場 所 第一会議室

出席者 (学外委員)

川上委員、小間委員、鈴木委員、長友委員、端山委員、望月委員、森口委員

(学内委員)

田野学長、小花理事、阿部理事、植村理事、三浦理事、西岡学域長、西野研究科長

(オブザーバー)

小池副学長、村松副学長、山口副学長、吉海監事、名取監事

議 題

議事録報告承認

1. 第125回経営協議会議事録報告承認 (資料①)

審議事項

1. 令和3年度学内補正予算(第1次)の編成及び目的積立金の使途について (資料②)

報告事項

1. 令和2年度に係る業務の実績に関する評価の結果について (資料③-1～3)
2. 令和3年度政府補正予算(案)について (資料④-1～3)
3. カーボンニュートラル計画の推進について (資料⑤)
4. 危機対策本部からの報告について (資料⑥)

議 事

議事録報告承認 第125回経営協議会議事録報告承認

田野学長より、第125回経営協議会議事録(案)について説明があり、これを承認した。

審議事項 1. 令和3年度学内補正予算(第1次)の編成及び目的積立金の使途について

三浦理事から、令和3年度学内補正予算(第1次)の編成及び目的積立金等の配分案について説明があり、これを了承した。

主な意見は次のとおり

(学外委員) サーバーなど、最近の半導体不足により、入手が困難なものが含まれているが、年度内の納品は間に合うのか。

(学内委員) 担当教員や納入業者と調整しており、確実に納品できることを確認している。

(学外委員) 西9号館の改修の設計の中に、ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)設計費用が含まれてい

るが、現時点でのゼロエネルギーの設計とはどのようなものが考えられるのか。

(学内委員) 改修の際、建物で使用する一次エネルギーを50パーセントまで減らすというものになるが、窓ガラスを真空ガラスにする、空調、換気や照明などを全て高効率なものにする等、必要最小限のエネルギー使用となるよう様々な工夫を加えて設計している。

報告事項 1. 令和2年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

阿部理事から国立大学法人評価委員会から通知があった令和2年度に係る業務の実績に係る評価の結果について、本学は全ての項目において順調との評価を受けたとの報告があった。

報告事項 2. 令和3年度政府補正予算(案)について

三浦理事から令和3年度文部科学省補正予算(案)について説明があり、本学のUEC共創進化スマート教育システムについて、2.5億円の予算が措置される旨の報告があった。

報告事項 3. カーボンニュートラル計画の推進について

三浦理事から政府が2050年を目途とするカーボンニュートラルの実現目標を掲げたことに伴い、本学としても「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」への参加、「カーボンニュートラル推進本部」の設置、カーボンニュートラルの実現達成に向けた全学的な取組宣言、「電気通信大学カーボンニュートラル計画」の策定及び10年ごとの目標値設定と施策の策定など、目標達成のための取組について報告があった。

主な意見は次のとおり

(学外委員) 人材や研究でカーボンニュートラルに貢献することは大切である。これに限らず、社会的課題を自分事として考え、主体的に取り組むことができる人材が求められているが、大学としてこのような人材をどのように育成していこうと考えているのか。

また、現時点で再生可能エネルギーがマーケットとして成立するのかどうかは不透明な状況。様々なオプションを用意するとともに、周りの状況をしっかりと見ながら進めていくべき。

(学内委員) 本学には複数の専攻があるが、環境問題については、横串型の教育を独自に実施する必要があると考えている。

また、本学の共同サステナビリティ研究専攻は、東京外国語大学、東京農工大学、本学の三大学が共同で設置した複合新領域の研究専攻であり、三大学の強みを活かした文理協働の観点から、地球規模の課題の解決に貢献できる博士人材の育成を行っている。

報告事項 4. 危機対策本部からの報告について

田野学長から危機対策本部(新型コロナウイルス感染症対応)で前回の経営協議会以降に審議、決定した内容について報告があった。

討議事項 1. 電気通信大学の人材育成の新たな試みについて

田野学長から10兆円ファンドについて、国の「博士課程学生支援」に対応した本学

の博士育成、博士課程学生の就職支援、「若手博士の育成」を目的とした本学の新たな教員人事制度、本学の人材育成の現在と今後及び日本版 Industrial PhD の必要性について説明があった。

主な意見は次のとおり

- (学外委員) 任期付き助教を原則学内博士後期課程修了者から採用としているのはどういった意図があるのか。
- (学内委員) 本学の博士後期課程修了者を一人前の研究者として育成し社会に送り出す責任があると考ええる。
- (学外委員) 色々な経験をして初めて、一流の教育者、研究者になっていくもの。
博士後期課程修了後5年間も同じ場所で過ごすことはむしろマイナスではないか。
博士課程修了後は他大学に転出して助教などを経験するなど、テニユアトラック准教授等になる前に色々な経験を積んでいることが大切であると思う。
この制度については、もう少し運用を工夫して進めたほうが良いと思われる。
- (学外委員) 産業界が求める人材も変わってきており、テクノロジーだけではなく、グローバルに活躍できる人材を欲しているので、そういったことも考えて若手研究者を育成してほしい。
- (学外委員) 日本版 Industrial PhD については、とてもいい取組であると思う。
- (学外委員) 今回の10兆円ファンドについては、支援対象が特定の大学に集中しているように思うので、もう少し広げて支援でききるようにする必要がある。
- (学外委員) 人材育成におけるダイバーシティの観点をどのように考えているか。
- (学内委員) 分野については、本学は工学だけなので、他の分野と連携しようと思っている。留学生についても取り組んでいる。女性については積極的な優遇措置はとれないと思い、現在議論を重ねている。

[配付資料]

- ①. 第125回経営協議会議事録
- ②. 令和3年度学内補正予算(第1次)の編成及び目的積立金の使途について(案)
- ③-1. 令和2年度に係る業務の実績に関する評価の結果について(電気通信大学)
- ③-2. 国立大学法人及び大学共同利用機関法人の令和2年度評価に係る業務の実績に関する評価について(所見)
- ③-3. 国立大学法人等の令和2年度評価結果について
- ④-1. 令和3年度文部科学省補正予算(案)
- ④-2. 令和3年度文部科学省補正予算(案)(ポンチ絵)
- ④-3. 「国立大学における教育研究基盤の強化等」の対象予定事業
- ⑤. カーボンニュートラル計画の推進について
- ⑥. 危機対策本部からの報告について
- ⑦. 電気通信大学の人材育成の新たな試みについて実績に関する評価結果(概要)